

1812 強震動によって発生する地すべり現象の発生ポテンシャル評価と事前予測手法の高度化

担当者 千木良雅弘 (chigira@slope.dpri.kyoto-u.ac.jp)

・実施機関（代表機関）名

京都大学防災研究所

・研究目的

斜面の地すべり現象（地すべり・崩壊・土石流を総称）は、地震による最も大きな災害要因の一つである。近年では、2004年の新潟県中越地震や2005年パキスタン北部地震、2008年の中国汶川地震、2009年パダン地震等が著しい斜面災害を引き起こした。また、1995年兵庫県南部地震や2011年東北地方太平洋沖地震では、都市域の造成地においても多くの地すべり災害が発生した。さらに、近い将来大規模な地震が予測され、それに伴う斜面災害は2011年東北地方太平洋沖地震とは比較にならないほど広域かつ甚大であると考えられる。これらの地震による地すべり現象の発生には、地質、地質構造、地下水、地震波の斜面内部での挙動など、様々な要因が関与するが、地震による地すべり発生のメカニズムと発生場についての研究は極めて立ち遅れているのが現状である。本研究では、これらの要因と地震時地すべり現象発生との関連を事例研究および観測研究によって明らかにし、地震動に伴って発生する地すべり現象の発生ポテンシャル評価と事前予測手法の高度化を行うことを目的とする。